

〈指導教員推薦文〉

社会学部 教授 萩野昌弘

三阪夕芽子「サハラ砂漠以南アフリカのキリスト教－ペンテコステ派の興隆－」

推薦理由

アフリカは21世紀において最も人口が増加するとされており、世界の行く末を考えるうえで注目しなければならない地域である。しかし、日本ではまだまだ、アフリカの社会への関心は低い。こうした状況に、論文「サハラ砂漠以南のキリスト教－ペンテコステ派キリスト教の興隆－」は、一石を投じるような価値ある論文である。具体的には、以下の点が優れている。

- (1) キリスト教のペンテコステ派について論じながら、現在アフリカが抱える問題について照射している。
- (2) 日本ではまったく研究されていない対象のため、外国語の文献を可能なかぎり網羅的に渉猟している。
- (3) 短期間ではあるが、現地でフィールドワークを行っている。
- (4) アノミー概念によって、ペンテコステ派キリスト教の興隆について分析しており、社会学の理論的枠組みもしっかりしている。

三阪さんは、交換留学でノルウェーに行き、平和学を学んだ。休暇期間中に訪れたケニアで、このテーマを見つけ、開発や平和の問題をアフリカから考えなければならないという視点を身につけた。この意味で、卒業論文は、交換留学の成果でもある。

論文の内容は学術的に非常に高く、いずれは、国際学会での発表や学術誌への投稿も期待できる。2012年度より、社会学研究科の大学院生として研究を継続している三阪さんには、ぜひこの論文を洗練させ、充実した研究活動を進めてもらいたい。